

あまるめ図書館だより

大人も子供も楽しめる・感動する鬼の本特集

「オニ」が今、大人気！

図書ボランティアさん作
鬼の切り絵



まもなく暦の上では春ですが、まだまだ寒さが続きます。

映画「鬼滅の刃」が大ヒット作品となり、アニメだけにとどまらず、社会現象として名を残すことになりそうですね。

このご時世だからヒットしたなど、いろいろな要因はありますが、もともと日本人になじみの深い鬼が影の主演であることや、主人公の少年・少女が戦いの中、仲間との絆や家族愛など関係を深めていくところが共感を得ているのかもしれない。

そこで今回は、もっとみんなに鬼に親しんでもらおうと、鬼をテーマにした本を紹介したいと思います。

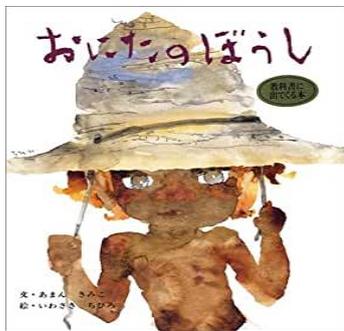
また、図書委員会のイベントでスタンプラリーを実施中です。季節に合わせて、「鬼の本」、「チョコレートの本」、「ネコの本」をかりてくれたお友達は、スタンプラリーのページ数を2倍にします。

(例:「だいくとおにろく」30ページを60ページへ)

※カウンター横に、「鬼の本」コーナーを設置します。たくさん利用してポイントアップしてください。

おにたのぼうし

主人公おにたは病気のお母さんのいる女の子に親切にします。おにたが本当に悪いおにばかりなのか考えさせられるおはなしです。



30ページが60ページに

だいくとおにろく

だいくは知恵を使っておにに橋を作っておにに橋を作ってもらったまでは良かったのですが、目玉を取られそうになります。だいくはどうやって難を逃れたでしょう。



30ページが60ページに

ソメコとオニ

元気な女の子ソメコがこわいオニに連れて行かれました。オニとソメコのやりとりが楽しいおはなしです。最後にオニはソメコのお父さんに手紙を書きました。その手紙には…



30ページが60ページに

じごくのそうべい

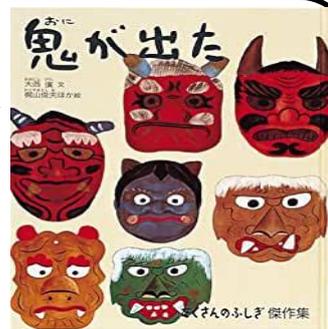
そうべいたちが地獄へえんまさまやおにたちとドタバタと戦います。最後にどんな運命を迎えるのか？おもわず笑いがこみ上げる楽しい落語絵本です。



40ページが80ページに

鬼が出た

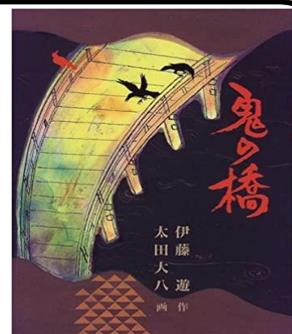
わたしたちの先祖がどのように鬼のことを考えていたのかどうかわりをもってきたのかとも興味深い話ののっています。



40ページが80ページに

鬼の橋

実在の人物を主人公にしたファンタジーの本です。少年の心の動きや成長がしっとりと丁寧に描かれています。



340ページが680ページに